



松江高等学校同窓会
事務局 西川津町3618
松江根立高等学校内
松江北高等学校内
4885
0655

北高校移転改築
特集号

母校 移転改築構想すすむ

西川津河畔から赤山台上へ つきない名残り

北高移転改築に寄せて



松江高等学校
松江北高等学校
同窓会長 森 本 暉

一昨年来、この会報もしばらくご無沙汰して大変申し訳なく思っています。その間、かねて念願の赤山への校舎移転がようやく本決りとなり、会員一同喜びにたえないところであります。昭和四十三年四月、早期移転の議が持ち上ってから四年の歳月が経ちました。しかしそれは今にしてみればもつと長く感ぜられる、産みの苦しみの期間でありました。期成同盟会の事務局である学校当局はもちろんのこと、直接、県、市その他関係団体との折衝に当られた同盟会長以下幹部の方々の並ならぬご尽力に対し、心から感謝すると共に、県および松江市全体の調和ある教育の発展のために、大乗的観点に立って深いご理解をお示しいただいた県および市当局に対しても、この際深く敬意を表する次第であります。

計画によれば、本年度中に松江一中の改築を終え、来年度から向う三か年計画で新校舎の建設に取りかゝることになるようです。われわれ同窓会としては、長い間老朽校舎で騒音と湿気に悩まされ続けてきた後輩たちのために、百年の大計に立った名実共に立派な校舎が一刻も早く再現されることを祈念し、またそのための物心両面にわたる援助協力を惜

近況

校長 兼 折 博

湖に風わたり、ここ松江へも夏、老残の校舎にも緑が深い。

一万三千の卒業生各位、つづがなきや。在校生もまずは健在。いま総合体育大会や期末考査も終り、夏休みをかえた一種の安らぎと静謐がある。

総体は残念ながら今年優勝したものは殆んどない。バドミントン女子と体操男子にその可能性があったが、後者は負傷者を出し、前者は紙一重の差で、ともに二位(但し、バドは男女とも単優勝)。予想もせぬ健闘を示したのが剣道と軟式野球、前者が二位、後者が三位。ともにベスト八にも入り得まいと思われていたもの、このあたり

に北高の底力もあるうか。籠球男女、バドミントン男それぞれ三位、体操女子四位、硬式野球優勝、ボート男女ともに二位というのもあるが、これは参加チーム二、三にすぎぬから、何ともいえぬところ。硬式野球には、昨年は全国十六位などというのいがいたが、今

年はない。男女総合得点四六。三位。男子総合二位。一昨年は男女総合優勝したが、ここしばらく、優勝への道は遠そうである。まあしかし、受験拠点校みたような学校で、八位以内は本校だけである。

文化部では、放送部が放送コンテストで、最優秀校となったが、残念ながら二、三部を除いては低調である。大学受験は、今年国公立(四年制)合格二五〇名(延)。数だけからいうと中国地区第一位。本校史上でも新記録である。しかし内容的にはまだまだ。広島、岡山などの数校にはいささか距離がある。

質実剛健という。旧制松江中学のモットーであった。いま、必ずしも北高のそれとなっていないわけではないが、物質氾濫の今日、それはいささか時代錯誤な標語だ、という人もある。しかし、質実とは物質的なことなのか。むしろその精神的真意こそ、誤らず把握されなければならぬ。文明のあふくの中で、人間生きることの本源の見失われがちな今日、このことばのもつ意味に、しかと眼を揺るがすことを肝要であろう。

浮動する世の表層の動きに幻惑され、うろちよるせぬこと。知的追求に



曙さす光
松江北高等学校移転改築期成同盟会長
柴 田 午 郎

ずいぶん長い間低迷を続けた移転問題も、やっと明るい見通しとなり、全くほっとした気持ちです。期成同盟会長という重責にありながら、ときはと進めることの出来なかつた私の無力を深くお詫び致します。

さていよいよ移転改築が本決りとなれば、われわれの仕事は、緑の下の力持ち的な存在として、寄附金募集に全力をあげねばなりません。趣意書にもあるように、われわれの寄附金をもって、卒業生会館を建てようという訳です。昔の教育と違つて、先生、生徒、父兄、卒業生が一体となつ

も注意を向けるべきだと思います。この度の移転改築などは、めったにない関心の深さを示す機会だと思えます。こうした基本的な問題と寄附金などを結びつけることは、一見奇異な感があるかもしれませんが、然し根本的にはこうした教育に対する認識があつてこそ、はじめて気持よく寄附金なども出していただけるのだと思えます。

さて具体的に寄附金募集ということ、抱負するご本人はもとより、世話をしして頂く皆様にも一方ならぬ迷惑をかけることであり、この点ほんとうに申訳ないことながら、前途の精神的な教育についての理念をかまえて、これらの母校のために、御拠金をお願いする次第であります。

地元のをわれわれはもとより全力をあげて努力しますが、遠く東京大阪等に居られる皆様にも、心から御協力をお願いいたします。松高の卒業生の皆様は、年令的にもいま最高の活動期ある方々であり、その裾野には、若さあふれる人々が居られます。皆様方の御協力あつてこそ、はじめて立派な北高が完成されると申して差支えありません。くれぐれもよろしくお願ひ申し上げます。

痺れをきらす

期成同盟会幹事長

馬場 純 一

松江北高等学校の移転問題が起り、期成同盟会が結成されてから四年になりました。

大抵の事業なら、四年も経過すれば目的を達して祝賀をあげる頃ですが、わが同盟会は、これから愈々本番に入るといふ実情にあります。お若い方の多い同盟会のことですから、定めしお話の中では、不満が噴き出した事もあったのではありますまいか。実は私も年寄りでも、痺れを切らす気持を抑えかねて参りました。

北高の移転先についても御意見は夫々多岐に亘ってあったこととせし、よく纏められて赤山移転の一大推進力となつていただきましたことを、感謝しております。然しそのように決

った後が大変で、二十年の伝統を持つ松江一中に他に移つてもらうことは、情に於いても忍び得ぬものがあり、御理解を得るのに、相当の時間を要し、加えるに、新一中を、一挙に新築することになると、その資金に關して、種々の難問題が起りました。

然し各方面の方々の心からの御協力によって漸く三月上旬に、県と市との間に、お話し合いがございましたので、陳情を續けておいた同盟会も肩の荷を卸した感じがいたします。それにつけても難問を解決して下さつた県知事はじめ、県教委を含めた県御当局、市長、市教委の方々、県議会、市議会の方々に對して、正に合掌感謝の気持ちで御座います。

唯今から、しばしば御督促を頂いておいた募金活動に入ることになりましたが、どうぞ今までに倍した御協力を御鞭撻とお願ひいたします。

同盟会結成以来の交渉の経過の大略を、下記のように御報告いたします。

学校群の形成

松江市教育長

岡 磯 吉

明治五年「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」と、国民皆学をめざして学制がしかれました。松江北高の母胎である松江中学校は、その四年後に開校したのですから、たいへんな由緒があるわけです。

先年、開校九十周年記念式に、百周年までには赤山へ移転しよう、という決議がなされました。まさに十年経って、その決議が実現するのですから、開校百周年に併せて慶賀の限りと申せましよう。

赤山への移転案については軒余曲折がありましたもの、県、市当局の懸命の御努力が結んで、移転案は軌道に乗ってきました。

これによって、北高・一中を同時に新築整備することができます。また、

鳥根大学を東限とし、高専を西限とした学校群がうまれます。これら教育系統が連帯していれば、建物、環境、交通などが整備されやすくなり、これもまたよろこばしいことです。

ひと昔前には、家を建てることは「男一代の仕事」といわれていました。もともと此の頃の若い人は家をどんと建てていくから感心しているのだけども、ともかく校舎の新築に遭うことは、私の長い教員生活のうちでも希有なことでした。

赤山台地に校舎を建てて、運動場は別に設ける——書斎と体育活動の場とをわけて用意する訳で——これは諸外国の近代学校施設に多く見られるもので、理想的形態です。

松江北高といえは鳥根県を代表する高等学校であつて、そのプライドをもつて「男一代の仕事」たる新築を、見事なしてあげていただくことを希い、また祈るものであります。元松江北高校校長(談、文責編輯部)

赤山が返る

近畿松江高・北高同窓会長

和田 亮 介 (旧姓木橋)

「赤山が帰って来る……」沖繩返還にまさるグッドニュースであつたが、ここにいたるまで、本当に永い間努力して頂いた地元の先輩諸兄と、それにも増して、心よく赤山をわれわれに返して下さつた関係諸氏に心からなる感謝を申し上げたい。戦後の学制改悪については、今更ここ

に愚痴る無駄は省くけれども、この二十年、母校の存在を持たなかつた悲哀は、省みるだに腹が立つ。特に、われわれの様に、故郷をあとにしている者にとつては尚のこと、同盟会一つ開いても、赤山が母校のものではない現実の前には、つい盃の酒も苦く、冷たいものになるのであつた。赤山と二本松が再び……これで、うまい酒が呑める。大山に苦を語る事が出来ると思ふと、永い間の心のかえが一度に落ち、貸したままの金を返して貰つた様な、爽快さを感じるのである。

ただここで、考えなければならぬところが、いくつかがありはしないか。われわれ、松江高、北高の卒業生は、その全員が赤山で育つたわけではななく、赤山育ち

は、ホンの一握りでしかないことだ。勿論、赤山育ちでない連中も、心の故郷としての赤山復歸に、いささかの否やもないのであろうが、われわれ、赤山育ちが二十年味わされた悲しみを、再び彼等と感じさせないためには、赤山復歸後の、学校運営の仕方にいかつて来る様な気がしてならない。その意味では、赤山復歸の本格的な苦勞は、これから始まるのではないだろうか。

今一つは、松江南高の移転問題である。南高の処遇について、現地北と共に、赤山の伝統を継ぐものとして、遇されている。北の復歸後、南はどうなる。赤山イコール松江中学、その伝統を恐る。南高の立場を、北の復歸が実現するだけに考へたいのである。

赤山復歸の実現の陰には、直接、間接に、南高関係者の努力も少くなく、たであらうと思はれるだけに、何らかの形で、南高の納得のいく処遇を、熟慮されることを望むのである。

松 嶺 東京松江高・北高同窓会 上村 桂一郎

聞き、雙松に向つて語り、咆哮した日々が、まざまざと思い浮かぶのです。私は単に感傷や、抒情的なことを言う積りではありません。この日進歩の近年、或はマンションに、或は高速道路に目まぐるしく変る東京、人の記憶や思い出に關係なく、日一日と変貌を重ねて行く大都会に於いて、感覚的にも無感動に馴れきつて現況を思ふ時、自然の声を耳にし、自然を肌で触れ、自然と語り、自然に溶け込んで過した毎日、自然がそこにあると云ふことではなく、自然を構成する自分を発見し、自然と對等に話し合える赤山懐しさを覚えると同時に、若き学徒にとつて、情味豊かな人格を形成するに充分な土壤を確信するもので

す。松風の奏でる声を聞く、それは日本人の心であり、心のゆとりを齎らします。私は何時も心のゆとりを保ちつつ、高邁なる理想を掲げ、情熱を持って目標を完遂すべきと、信じています。

この赤山と云う理想的な教育環境に、伝統と歴史の積重ねの台地に、私達の後輩の為に少しでも立派な学舎建設に微力を尽したいと思つています。今日我々は目標に向つてのスタートを切りました。成功を心から祈願します。

☆ 東京同窓会の事務局は 東京都大田区羽田 東京空港交通内 木佐 安 九 君(五期)

☆ 近畿同窓会の事務局は 大阪府泉北郡忠岡町馬瀬二六七 有松 将 君(二期) (〇七二五)三二二〇一

☆ 東京同窓会の事務局は 東京都大田区羽田 東京空港交通内 木佐 安 九 君(五期) (〇三)七四七〇三〇五〇一六

☆ 近畿同窓会の事務局は 大阪府泉北郡忠岡町馬瀬二六七 有松 将 君(二期) (〇七二五)三二二〇一

☆ 東京同窓会の事務局は 東京都大田区羽田 東京空港交通内 木佐 安 九 君(五期) (〇三)七四七〇三〇五〇一六

松江北高移転改築期成同盟会 経過 報告

- ◎四三・三・一六 結成準備会——双松会・松操会・松江北高同窓会・北高PTA・北高代表参加
- ◎四三・四・二〇 結成総会——会則審議・役員選出・基本構想検討
- ◎四三・一〇・一五 第一幹事会
- ◎四四・六・三 第二回幹事会——移転候補地を赤山に決定
- ◎四四・八・二 対県陳情
- ◎四四・九・一八 対市協力要請
- ◎四五・三・四 第三回幹事会——募金委員会設置を検討
- ◎四五・五・一八 第一回募金委——募金基本方針審議
- ◎四五・一〇・九 第二回募金委——募金趣意書・募金要綱審議
- ◎四五・一一・一〇 第三回募金委——募金趣意書・募金要綱決定
- ◎四五・一・一〇 第四回幹事会——移転に伴う条件をめぐる諸問題を検討
- ◎四六・六・一 第六回幹事会
- ◎四六・六・一六 七・六・七・一 九・八・一六・九・二五 県当局に促進方を陳情
- ◎四六・八・六・八・一九・九・二五 市当局に一中移転促進方を陳情
- 一中移転問題に対し、地元の了解工作を続ける。
- 市議会全協で一中移転を可決、市長一任となる
- ◎四六・一一・一〇 第七回幹事会
- ◎四六・三・一四 第四回募金委
- ◎四七・六・一九 第八回幹事会
- 松高・松江北高同窓会の募金事業の開始について検討、諸準備が整い次第開始することを了承

新校舎の建築構想

松江北高校は、百年の伝統に輝く全国有数の高校であります。

今回の移転改築は、この伝統にさらにも輝きを添え、また同時に、新しい伝統の起点であるとすれば、校舎の建築には、実用面については勿論のこと、徳育の面についてもふさわしい建築であることを、われわれ同窓会員はねがうものであります。

斯かる意向が建築その他に反映されるよう、学校を通して県当局に具申する予定です。

現在考えられている建築構想は、凡そ次のとおりです。

1 環境

松江城山の北、緑につつまれた、静寂にして、清浄な丘であります。

2 用地

赤山の台は、総面積約一万坪ありますが、この約四割の部分に校舎が建ちます。

ここから徒歩約五分ばかりの所(西原)に、約一万坪あまりの第二グラウンドが置かれます。台上の第一グラウンドでは正課の体育が行なわれ、第二グラウンドには野球場・陸上競技場・テニスコートなどができ、主としてクラブ活動の場となります。

3 建造物

校舎は四階建が予定されています。体育館は、高床式建築のA級(バスケット・コートが二面とれる広さ)規模で、床下は、雨天体操場としても利用されます。

講堂は、千五百名位収容の固定席です。式典、講演をとおして、ここに在校生は精神的高めと充実の場を得るわけです。

同窓会館には「芝蘭室(しらん室)」が設けられます。芝蘭室というのは、卒業生の思い出のよすがとなるとともに、在校生に無言の励ましと資となる、百年の歴史を具体的に語る事物が展示される場所です。

現在の高校においては、生徒間、教師と生徒の間に人間的な心の触れあいの場、時間が欠けているために、人間関係が希薄になりがちです。そこで、真の人間形成の場としての、本来の高校の姿に戻れ、と昨今強く叫ばれているわけです。

しかし、残念なことに現在の高校の設置基準の中には、そのような人間的交流の場としての適当な施設は考えられておりません。

そこで卒業生の皆様のご助力を仰いで、人間を育てる場としての適当な施設を、同窓会館内に是非作っていただきたいと願うものであります。礼法室和室・合宿室等々の名称がつけられています。芝蘭室は、芝蘭室単位……等々、生徒と教師が起居を共にして、知的な学習活動では得られない人間的交流を深める場、社会連帯の真意を会得する場として大いに利用させていただきたいと願っています。

すばらしい緑につつまれた。静寂な教育環境の中で、後輩が心身共に大きな人間として育っていく、名実共に、われわれの母校のシンボルあり、卒業

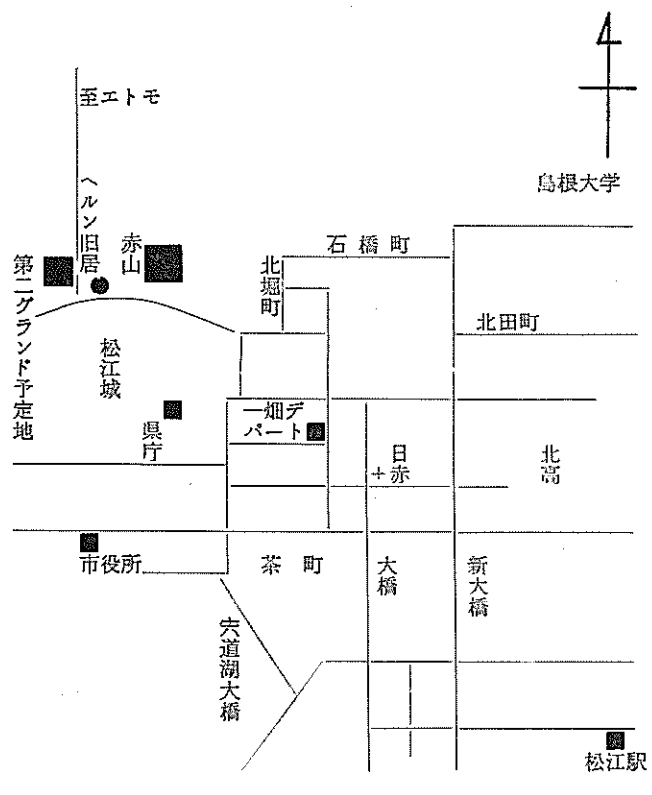
生心の故郷となる会館を、卒業生のみならず、みなさまの力で設立していただきたいと、心からお願ひするものであります。

勿論、同窓会館は、卒業生のみならず、お力添えて設立されるものであります。簡単な宿泊もできるように、多目的利用を考えた建物にしたいと考えています。

設立の上は、どしどしご活用下さるようお願いいたします。

なお校舎については、県当局の方で設計・施行されるため、学校側としては、少なくとも百年先を見通した理想案を検討して、県当局の設計段階で盛り込んでいただくように、折衝されることとします。

同窓会館については、同窓生のご縁金によって建設されるものでありますので、期成同盟会の幹事会等でもいろいろご意見をいただいて、次にありますような案が作られました。これからも各方面からのご意見をいただいで、設立の趣旨が百パーセント生かされる会館にしたいと思っております。どしどしご意見をお寄せ下さい。ただこの会館は、ご縁金のみで建設するわけですから、ご縁金総額によって伸縮される性質のものであります。下図はあくまで案としてごらん下さい。



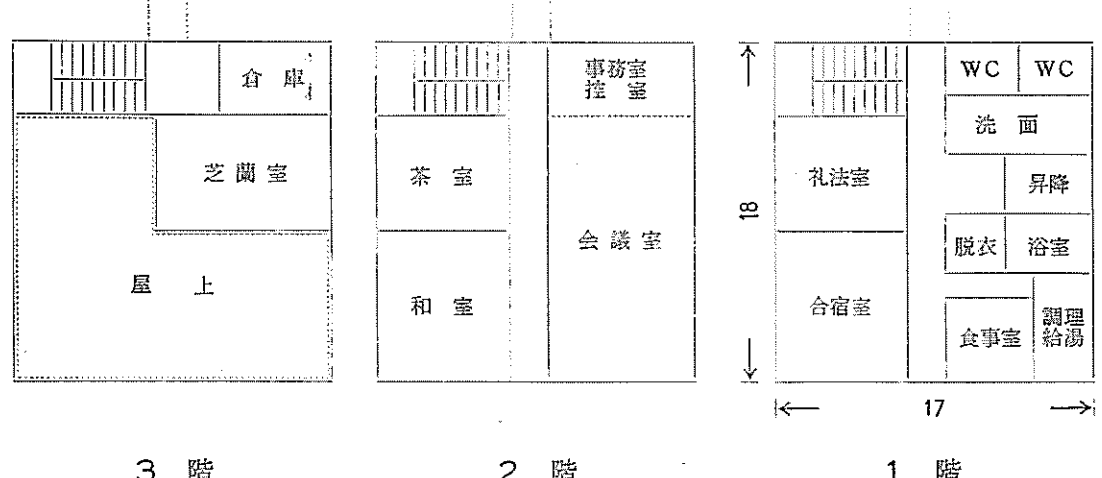
旧松中出身の〇君が、十数年振りに来松、もう我が家はないので赤山を我が家と思ひ、真つすぐに赤山に車を走らせた。と語ったことがあった。現校地も、ここを道路が縦横に貫通する、とあっては、移転はやむを得ぬところだが、あとに、せめて記念の故地を残したい、というのには、一万数千の卒業生、あげての念願ではなからうか。あるいは、若い今のうちは、それほど思わずとも、十年、二十年、あるいは五十年後になって、故地の根柢もないことに痛恨の思ひをかみしめる、といったことも起り得よう。ささやかなスペースでもせひ、記念の地は

残すべきだと考えている。現在、移転改築のことが困難を極めて、県に、そのことを要請する段階に到っていない。しかし早晩このこと

て頂くなら、現在すぐ発足しても、決して早すぎることはなからうと思ひている。残す場所は、正面玄関前の前庭、質実剛健の碑を中心とするあたり、が適当ではなからうかと考えている。堀沿の緑地数百坪をそのまましておけば、松江市東郊唯一の水と緑の「いいこい」の場ともなろう。松江市の都市づくりにも意義あることになるはずだ。ともあれ、場所も広さも、すべて卒業生諸君の希望におまかせしてもいい。現校地移転後の使途の、まだ固まっていないうち、一日も早く、そのことにとり組んで頂ければ幸甚である。

同窓会館平面図(案)

1:400



延面積 : 約 730 m²

記念の故地を

兼折 博

恩師のおことばかずかず

あの頃の学生

藤原もと代

私の女学校時代は、兄が松江中学の教師をしていたので、中学校に在籍していた弟といっしょに有終塾で暮らして、あつた茶の荷をはいって大きな風呂敷包みをもって、あの山から通学したものである。有終塾にはたしか、中学二年生が寄宿していて、三年の石原という人が塾長であった。かつて県の教育委員をしてもらった小室定彦さんや、大蔵省で手腕ふるい、若くして亡くなった庄林さんや、農学博士になられた末次さん達がよい連れであった。

山では今のように共学でもないのに、血気盛んな中学生ばかりの中に、まかないのおばさんと私だけが異性として同居を許されていた。(勿論舎監宅での起居である)時々、誘われてテニスをしたが、その頃は男子の学生とゆきずりに挨拶をしてもいけないような風習があつて、兄にやかましく、きびしくつけられていたので、兄が帰りそうな時刻までに部屋に帰ることにしていた。せいけん(漢塾字不明一筆者)の横田先生や仁多舎の江田先生には大変可愛がられ、あの頃を思うと殊にほのぼのとしたよき時代であつたことが、今更のように思われる。

赤山の中学校にも、兄の使いで毎度行ったものである。岡虎先生、田中一元校長さん、谷口為次先生方は、中学校では偉い先生であつたようだが、お嬢さんお嬢さんといわれてあまやかされたことを覚えている。

私の女学校は、母衣町にあつた。校庭は狭いし、隣りに民家があり、情緒的なものを感じさせられることは少なかったが、赤山の中学校は山なので、緑と赤い土との調和もよく、静かなたたずまいの中で、授業時間中は鳥の声と松嶺で人のいることさえ感じられぬ、殊に理想的な学園であつた。雨

の日よし、澄みきつた晴天もまたよし、中学校の学生さんをうらやましく思ったものである。

昭和二十四年一月(東京で教員をしていたが学校疎開で新潟県高田女子学校に勤務)新潟県から松江高校北校舎に赴任した。三月の卒業式の記念撮影を二本松下でとる前に、男の先生方に前列の一番端に座ることを教えられた。撮影がすむかすまないうちで一番前列の学生がなだれおちて、一番前にいる先生方をしたじきにするのが恒例だといふのである。その頃は、英語の永野先生、食物の新谷先生と私の三人が女であった。お互いにしたじきにならぬよう身をこまえたものである。その年の卒業生の中に現職の松本幹彦、福岡憲一郎両氏もおられたわけである。

四月から共学の一年を担任し、確かその年の秋に赤山を降りて、川津の校舎に移つたと記憶している。

私の組は五ルームで朝早くから理科室の機械器具の運搬にあたつていた。大きいものは荷車で、小さいものやこわれやすいものは、それぞれ手に持って運び、女子は校舎内外の清掃をして、夕暮れになるまで皆よく働いた。仕事が終わっても、校舎や赤山との別れを惜しみ、暗くなつても山を降りようとせず、上級生は廊下に座り込んで今夜中なごりを惜しむのだと涙乍らに語りあうものもいた。この時の感慨は忘れることなく、時々クラスの会には誰かが、必ず口にされる。

あの赤山復帰がかなうということ。女の私でさえ涙が出る程うれし。あの山の周辺の木や土や雲圍気が雅量のあるまっとうな人間をつくつてくれるのである。赤山精神は多くの青年に強くたくましく、立派に生きることを教えてくれるのであろう。

北高の移築について

内田 栄

勤めている学校の研究紀要に序文を書き、きざきざいと思ひ「堂塔成つて教旨ほろび秀才を讃えて殺人鬼を養成するのでは教育などと言えた義理ではない」と記したのは、学問にモラルが必須であることを言おうと思つたためである。北高の赤山移築本まじりのニュースを嬉しく聴いたがそのことがどんな意味を持つのかよく考えてみないといけぬ気がしている。

原点に返れということばが流行したが、青年教育の原点に立ち返つて「赤山」の意味を考へるとき、私は「そこにはモラルがある。」ということが第一に言えさうに思う。「ある」とは変な言い方で「あつた」が正しいかも知れないが、言いたいのは「あらせるべし」ということである。「天下の秀才雲のごとく集まるなど威勢のいい形容は今後の青年に訴へるのに適切でなからうし、エリートへの心情は戦後教育の邪魔者であつたはずである。そうでなくて「健児」の呼称を先ずモラルについて言うべきであり、紳士淑女ある

いはその卵という中味でありたいと思ふ。私もとって心ふるさつである赤山はしかし昨今将来の高校生にとつてそのままではまらず、住めば都とは至言であつて今の北高の校地も多く卒業生に懐かしまれるであろう。かと言つて赤山移築は単なる換地では決してなく、教育環境といふことばでもあまり簡便には片づけられない気がする。北高生諸君には比較的条件整備に便利な校地に赴いてそこで第二の、いや新しい「赤山精神」をうち樹ててもらいたい。伝統とは永遠に生産的なもの(ロダン)であるべく新しい学舎の生活からどのようなスピリットが生まれるかそこを楽しみである。それまでに私たち同窓は新しいモラルへの展望を青年たちと一緒に開拓する義務があると思ふ。青年諸君がそこで新時代にふさわしいモラル、本物の自主自律を確立して下されば同窓たるものこんな嬉しいことはあるまい。



錦織保久先生 旧職員カット

赤山復帰

並河 由則

松中時代と云えば二本松のあるはるかに大山を望む、緑に囲まれた静かな高台が心に浮かび、それに伴つて各先生や友人の思い出がながります。松江北高生が再び同じ環境に学ぶことになり、初めて先輩後輩という一体感が湧いてくるのではないかと思ふます。

小生は昭和二十四年松高に赴任、四十六年定年退職まで足掛け二十三年母校で教鞭をとらせていただきました。最初松高南校舎(現在の北高)に勤務しましたので松高北校舎(現在の赤山一中)の先生になつておれば本當に母校に帰つた様な気持ちになれるものと、残念でした。(これは赤山にある

拙宅からの通勤距離が短かい関係もありますが)。後になつて南校舎が増築され、北校舎が民族大移動と称し下山してきましたが逆になれば良かったのと思つたものでした。最後になるべく早く移築が完成し拙宅に北高生の叫び声などが聞かれる日が一日も早い事を祈ります。

北高の顔

諏訪 秀富

北高を去つて三度目の初夏が訪れて来た。むせるような新緑の生気とけだるさ、そして、日向の強い日差しと、日陰に意外な程の冷気を漂わせる季節の表裏が、私の北高回想を誘発する。それは全くおかしな組み合わせであり、なぜこうなるのかはつきりしないが、過去二回そうであつたし、今年もつい先日強い日差しの校庭から、ひんやりした校舎内に入って暗がり戸惑いながら、ふと数年の昔を思い出したことであつた。

回想と言ひ思ひ出と言つと、それはいかにも一連の系統だつたものや、アルバムをめくることにも似た劇的な展開を思わせるが、実際はそれとはおおよそかけはなれたもので、漠然とした、しかも断片的な無秩序なものであることが多い。

それは、一世紀に近い歴史と名声をほしいままにして、幾多の俊才を世に送り、そして又、現に過疎県にありながら、全国的に高いレベルにある名門校の、それにまつわる思い出として、まことにお粗末なものなのである。そして、まるで夢にみる人々の、ひとりひとりの顔が醒めては再び思い出せぬように、何か欠けているのである。肝心の部分がうつつなのである。十数年の歳月をそこで送り、伝統維持の尖兵を以て任じ、愛校精神(職務愛と言ふべきか)の豊かさは人後に落ちぬと誇つていたのに、この態なので、しみじみ情なく思ひ、不可解なむなしさの虜になる。

最近、公害の一つとして自然環境の破壊が深刻化しつとあると言われ、松江近辺でも目につくようになって来た。自然と深いかわりを持つ人間にとつて、その存在を脅かす大事なのであるが、こうした悲劇的現象は、形こそ違え学園とそこに学ぶ者を冒している。宿命的に対決を余儀なくさせられる受験指導、世界の二大思潮の激流に端を発する価値観の混乱・対立等、所詮不可避のものとして懸命の対策がとられて来たし、その成果もあがつてはいない。だがしかし、その一面が原野の草花を、根こそぎにして保護園に移植するような姑息的手段に終らざるを得なかったのも事実である。そこに学んだ若い人が、ゆっくり環境になじみ、友情の絆をたしかめる暇もなかつたらうし、ましてや長い伝統に思いを馳せての温故知新は、期待する方が無理だつたということかもしれない。現在の高校三年そのものが、師弟の後継さえも盛るに堪えないようにも思われる。

懸案であつた校舎の移築は、具体化したと聞く。事の経過にかかわつた者として、心からの祝意を表したいが、同時に、松江北高に学ばれた万余の人達が、母なる学舎と共に、青春の日のモノメントを失われるとしたら誠に痛恨事である。夢にみる顔に、永遠の微笑を求めは無理としても、せめて個性に満ちた顔が、まざまざと浮ぶような、そんな学舎としての北高が復活することを祈つて。

この期・あの人



一期 原田米蔵

赤山復婦が決定してまだ間もない去る三月二十四日夜、玉造温泉ホテル松の湯でひさびさに同期生会を開いた。

旧恩師、飯塚一雄、中島正元の両先生を迎え、たまたま帰郷していた和田亮介君、藤原歌劇団のバス歌手で、地元各大学で教えている世良明芳君をはじめ、久しぶりの珍らしい顔ぶれに時の経つのも忘れて欲をつくした。

同ホテルのクラブでの二次会では、世良君の美声、和田君の尺八、かつて東京キーンパンボーイズでならしたわかつきなかと(若槻安彦)君のサキソフォンの合奏、若槻君がリーダーであるクワルテットの演奏、社交ダンスコンクール全国優勝の経験をもつという山本光城君と踊り子嬢とのダンスなどに盛大な拍手を送った。夜も更けて、それぞれ第三次会場の松江に向った。当日の様子は寄せ書が雄弁に物語っているのを転記したい。

働き盛り、いやこれから益々の意気を感じまことに心たのもしい限り。

赤山復婦の報しげく、皆様の心意気をもて頼もしい限り、盛んな皆様の発展を念じつつ

皆様、多少はビジネスから自分を解放して下さい

又、会いましょう 稲生田成雄
赤山へ帰ろう 梶 仁敏
巧詐不如拙誠 和田(木幡)亮介
米子駅前幸明荘 坂本(佐藤)節夫
お互いに良い仕事をやるようにがんばろう 須田 晃生
二本松。この同窓会ではいつも三つ

若くなりませう 世良 明芳

プロ意識に徹して人生を楽しく生きよう 寺本 和男

身体に気をつけてがんばろう 錦織 翠蔵
原点にかえろう 原 良一
青春の価値し同窓会

東都汽車 原田 米蔵
どうぞよろしく 深田 時夫
赤山移転には絶大の御支援を 前田 勇
松本 幹彦
お互いがんばろう 松本 重文

赤山健児がんばれ 森本 暉
努力、天界 山本 光城
諸兄、先生、赤山移転を祝って何度も会いましょう
赤山サーカスわかつきなかと 若槻 安彦

二期 葛尾信弘

桜の花も散り、や、春眠のほとぼしりの覚めた去る四月末、第四回の二期同期会を催したところ、例年通り約五十名の参加をみた。恩師兼折先生をはじめ、数名の先生を囲み、飲み且つ語り、果ては校歌、応援歌、オールマン、裸踊り、ストーム等がとびだし意気軒昂天をつくばかり楽しい一日であった。おおよそ、この世の中に数知れぬ程の宴席、会合があるが、中学校時代の同期会程文句なく楽しいものはない。乏しくなりつつある髪の色など気にしながら日頃の苦楽や往時を語り合ひ、来る年の再会を楽しみに別れてゆく。

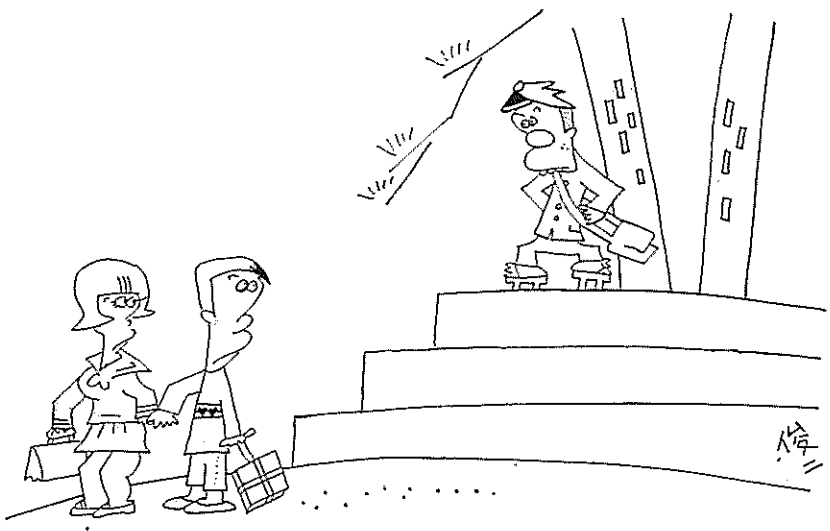
この様な同期会を昭和四十三年以来

毎年開催しているが、それまでには卒業以来約十七年の年月が経過した。高校や大学をでてしばらくは、誰しも仕事に追いまわられ、モレツ勤務等で同期会等に振り向く暇などないものである。やはり、少しは「年をとる」事が必要だったかも知れない。ちなみに来年の同期会のメインイベントは、厄年のおはらい祈願と決めた事が、それを如実に物語っているだろう。

同期会のもう一つの活動は、毎年一回会報の発行である。数えて第三号を発刊したが、なかなか好評である。全国各地から寄稿を依頼し、母校やらぶるさと松江の事、同期生の近況など盛り沢山に編集している。これにこたえる如く、特に遠く松江を離れている諸兄の望郷の念、赤山を想う心切々たる返信をいただく事がある。

赤山は、しかし、甘い感傷の対象としてばかり存在するのではない。むしろ、「男女不共学」のサツバツの雰囲気気が占めていて、そのことが却って青春を純化したのかもしれないが、思ったりもする。

赤山は、やはり、私たちにとっては青春の「ふるさと」であったのだ。



赤山二本松から先輩が見ちよーなーでやほがほがすーだないで

圖山俊二氏(5期)

三期 森 淳

我々の母校、松江高校の後身校の松江北高校が、より良き環境と伝統の地を求めて諸先輩を始め各界各方面の御協力を御尽力によって紅陵台上に復帰

する事が決定したのは誠に喜ばしい限りであります。

想い起せば、我々松高三期卒業生の大部分の者は、昭和二十一年の春、敗戦の混乱と解放感の混じり合った奇妙な一種独特な雰囲気の中に、それぞ

れ県立松江中学校、県立松江高等女学校、市立高等女学校、私立松操高等女学校の門を、希望と選ばれた喜びとを胸に抱いて潜った仲間でありませう。今は消滅して「旧制」と云う冠詞のつく光輝ある歴史と伝統を持つ各々の学校の最後の新生であり、従って各併設中学校の在学中並びに、松江高校の二年生になる迄下級生を持たなかった事や男女各々中学校、高校と六年間同窓であったり、又、高校の男女共学の第一期生であった等種々の特異性を持ち、親近感も殊に強く松高草創の頃に新制松江高校の歴史を創るべく、新生の意気に燃えつゝ共に学びかつ遊んだのであります。

往事は茫茫として夢幻の如し。男子の隣席で恥ずかしくてお弁当が半分しか食べられなかった乙女もどっかりと主婦の座に納まり、喰い上げをして昼休みにパンを買いに走っていた男子もそれぞれにその所得で社会の中心堅にあるいは指導層になって居ります。

本年はまさに松高卒業二十周年に当たりますが、そろそろ昔が懐かしい年頃ともなり、や、金と暇が出来たという事もあってか、去る三月十七日にむらも会館で同期生会を開いた所五十四名(うち女子十二名)が出席して時の経つのも忘れて話に花が咲き二次会、三次会……と欲を尽しました。

席上、ゴルフ大会を隔月位に開くと、麻雀大会(これは三十五年から月一回開いて四年間位続いて中断してあります。)も復活させて隔月位に開くとや三期会総会を春秋二回開こうではないかという声も出て居ります。

「人生わずか五十年化転のうちにくらぶれば夢幻の如くなり」とか。平均寿命七十年になっても人生の華はこれから十年あるいは十五年ではないかと

も思われますので、縁あって机を並べた同期の仲間の手を取り合せて助け合ったり少年少女の頃を懐かしんだりしようということになって居ります。

四期生の諸氏、一層のご活躍のごことと推察します。

さて、我が母校の移転改築が本決まりとなったことをご存じのことと思えます。一年生の秋、オンボロ北校舎から南校舎へ統合し、赤山を下りてから二十数年過ぎた今日、移転についてわれわれ四期生諸氏にも多々異論があり、全期同窓会幹事会の席場でも強硬な議論を吐きました。現在一応の線が決定した上は、泉次会長はじめ幹事としては協力を惜しまないつもりです。

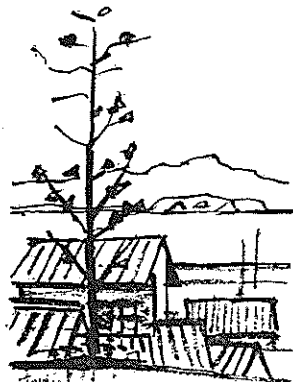
それに付随して同窓会館の建設の話が持ち上がり、同窓会の手で完成させるようというものです。各期がそれぞれ方針を決め、行動に移していき、まだ四期生の方はその体制になっていません。現在のところ、泉会長、石橋克也幹事(校内幹事)が中心に目下準備中ですが、それには四期生普通科三九名、被服科九三名の全員の協力がなければ実現しません。

われわれ子息のためでなく、三年間の青春時代を世話になった、いや世話をやかせた時代を思い、何かの形で残したいものと感じています。

四十七年度同窓会も十一月二十一日(火)に開催の予定にしています。多数ご参集いただき大いに意気を高めようではありませんか!

泉会長が所用のため代理で一筆記しました。今後の四期生としての協力をお願い致します。

四期 須藤 行朗



六期 大北哲也

一堂に会し旧誼を暖め盃を重ねたいおもいを感じながらいつしか数年を経た...

六期は母校に五名の者が在職して... 松江を一歩たりとも離れずひたすら郷土にあって抗過疎の重責を果して...



カット 旧職員 富岡忠夫先生

七期 細田重雄

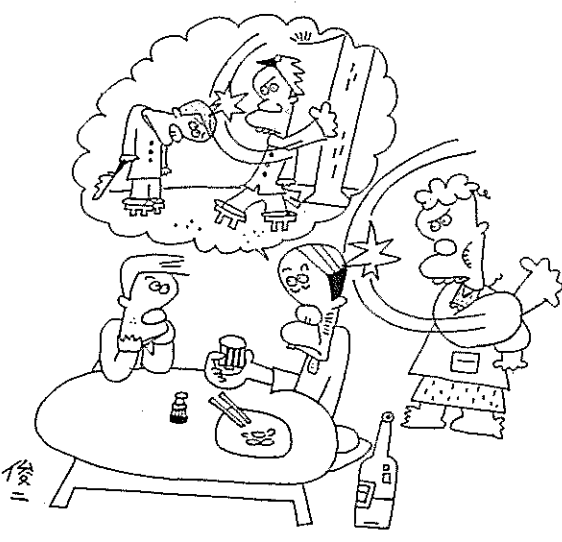
七期の地元松江における同窓会は、今まで数ケルーム合同または任意の有志で開かれることが多かった...

松江を一歩たりとも離れずひたすら郷土にあって抗過疎の重責を果して... 七期の地元松江における同窓会は、今まで数ケルーム合同または任意の有志で開かれることが多かった...

まことに雑多なことをくぐりだ述べましたとにかく一度は集りたくおもいます。お互い三十代も中ば、中年が近づきつゝある人々、PTAママも含めて...

局(電)東京二一五一一一内線四三六九。(住)立川市富士見町三二五... 近畿では、七期の在阪の幹事に宗智昭君(勤)サントリ京都支店...

て、一日も早く東京と同じように七期の会が持てるよう願って止みません。四十六年一月発行の同窓会名簿の資料収集の際は、幹事をはじめ多数の皆さんの協力を得て、七期は大変充実したものとりました...



「おとうちゃんやちやな 二本松の下でようなくられたもんだわや」「酒はやめないって いったらがね こなダラクソ」

山 俊 二 氏 (5期)

十期 竹内 誠

会総会が開かれますので、これに七期の皆さんが多数出席されるよう、そしてこれを機に近畿に七期の交流の場を作ろうと、目下四十六年一月発行の同窓会名簿を頼りに努力を重ねておられます。もし名簿発行後に異動された方(友人の消息についても同様)がありましたら、宗君まで連絡して下さい。また、宗君にお住いの方は出来るだけ、宗君のこの努力に御協力下さ...

四十四年の正月に松江駅前ステーションホテルで、松高卒業十年記念と銘うって同窓会をもちました。しかし出席が僅かに二十名位に止ってしまいました。幹事一同の落胆ぶりは目を覆うものであり、当分やめたという気分でした。があれから三年たちました。我々もいつの間にか、三十の大会に...

十一期 井原雅夫

十一期という数字にあやかっただ訳ではないのだが、奇しくも十一年振りに昨年一月水明荘で同窓会を催した。発起人は小林哲郎君(長満寺住職)で...

すが引導の名人とあって、彼の号令下に馳せ参じた者は三十五名のほり、初めての同窓会にも拘わらず盛況裡に推移した。当初参加予定者は恐らく二十名を割るものと思っていたにもか、わらず、およそ二倍近くにふくれ上った出席者の顔ぶれを見乍ら、卒業時の残留組のあつり残されたようなさびしさを思い起して、十一年という歳月の経過がこれ程迄に諸般の事情を変えていたのかという感懐にしみくひたされたことであつた。ともすれば往時の想い出話に花咲く同窓会も、自営者教員、建築家、銀行員、公務員等々各分野で働く同期生の抱負は尽きることなく、又社会の中堅にあって活躍しているたくましさもみながっている雲間気の中で、我々にとってはこれからの発展を期す発会式のようなであつた。都会の過密化とは対照的に過疎化が深刻化しつつある島根県にあって、意気軒昂たる青年のUターン現象は誠に喜ばしい現象である。事情の許す限り一人でも多くの同期生が松江に根を張り郷土の発展に寄与して欲しいと願うのは、何も私一人だけではないと思う。十一年振りという出会は、こうした感激と勇気を呼び起こす貴重な機会であったのであるが、ただ一つ諸般の事情より女性の参加がなかった事が残念であつた。恐らくは一家の主婦として家庭におさまっているのであろうが、彼女達もたくましく成長した同窓生の姿からかつての童顔を思い出す事は困難であつたと思う。今年三三三の発起で二月十九日臨水亭で第二回の会合をもつたが以後毎年世話人交代で同窓会を開く事を決議し、来年の世話人は前田君となつた。尚今年より十一期の代表幹事を小林哲郎君にバトンタッチした事を附記しておく。卒業以来、われわれの期の代表幹事として、いろいろお世話を受けた深田文雄君が去る四月二十三日不慮の事故のため他界されました。謹んで同君のご冥福をお祈りいたします。

十二期 和田八東

時の流れは早いもので、卒業して十一年、満二十九才か、三十才である。我々同期生も社会人として準中堅クラスで活躍し、又家庭では良きパパでありママであるはずである。

松江高校卒業時は私の友達は卒業と同時に都会に進学、あるいは就職したものが、今はどういふ訳か、数名を残して誰も松江に帰郷し立派に活躍している。

我々十二期の同窓会は卒業後二年程した時労働会館にて催した記憶がある。この時は、高校時代の先生方数名と、男女四十名程出席した。この時は高校時代のなごりが残っており、厳しかった先生方とお酒をくみかわして和気あいあい、高校時代の話に花が咲き、楽しい一時を過ごした。

その後、今から三年程前に県民会館にて同窓会を開いたが、この時は松江近辺在住者だけ連絡を取り合っており、男性だけが三十数名集まった。女性連中には連絡を取っていなかったため、出席しなかった。というのも我々男性仲間も女性も家庭に入ってから出にくく、いざという配慮からであった。

この時の集いで、年一回くらいは集まろうと話し合っていたが、不肖幹事の至るところで、その後一回も開いていない。是非この約束を生かして開きたいものである。

私は仕事の関係上数名の連中としばしば会う機会があり、いろいろニュー・ス交換を行なっている。悲しいことに、我々の仲間であった川瀬君が事故にあい亡くなられたことは返すくも残念である。

今度の同窓会の時誰しも元気な顔を見せてもらいたいものだ。
十六期 金平 憲
北高の門を巣立ち七年もの歳月が流れてしまいました。

十六期諸兄弟に於かれましては益々御健勝の事と拝察申し上げます。

風の噂では早、数児の父であり母である人。未だ独身を謳歌する人。今まさに結ばれんとする人。実に我が期は人生の波間に漂う葉の如き相です。

同期生も公私共々多忙な方々が多く、随分やっとなので幹事の長谷川君とも相談の末、忙しさにまかしてたんじや何も出来ないから夏にでも一つやろうじやないかと云う事に成り、只今慎重に検討中ですので、集合をかけた折には是非、馳せ参じて戴きました此の紙面を拝借して御願ひ致します。

又準備の都合やら何やで、もし夏(御盆頃)に出来ない場合には正月にでもやりますので宜敷御配慮の程御願ひ致します。
扱て皆様すでに御承知の事でしょうがいよいよ赤山復帰と言う事に成り、新しい松江北高の出発が近づいてまいりました。良き伝統の上に新らしい伝統を誇る北高のそして大きな社会問題としての教育の再開等の場となるべく北高の新生には又、諸兄弟の御協力を得ずしては何も出来ませんのでその点も宜敷御理解の程御願ひ致します。

最後に同窓会名簿発行の際にも御願ひ致しましたが、転勤、御結婚等で住所、氏名に変更が御座いますれば、是非、北高事務局なり、幹事なり御一報下さいませ様重ねて御願ひ致します。それでは皆様の御健康と御多幸を願いつつペン置きさせて戴きます。

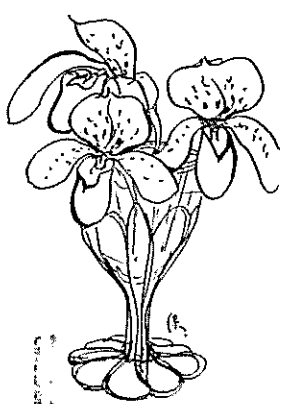


カット 旧職員 錦織保久先生

十七期 河野利子

四十一年春、母校を巣立った十七期生も、今年には二十五歳。目下募集中の看板をかけた者も多いが、エプロンをつけた若奥様、ネクタイをしめたサラリーマン姿も板についた。

四十五年一月二日、松江市内の旅館で開いた同窓会には百人近くが出席したが、その後機会に恵まれず、現在に至っている。今年の夏あたりにはぜひ集まり、ニギビはなやかな頃の思い出をたぐりたいと思っている。



カット 旧職員 錦織保久先生

松高・北高同窓会幹事

氏名 勤務先 勤務先電話番号の順

会長 森本 輝(一期)

副会長 泉 次(二期)

武藤裕子(一期)

大庭中学校(一)一六四

景山一(二期) 一文字屋ホテル(一)一一七

葛尾信弘(二期)

葛尾内科(二)六五五

泉 次(二期) 泉本店(三)三二一

細田重雄(七期) 泉本店(三)三二一

竹内 誠(十期) 泉本店(三)三二一

竹内時計店(二)七八七

常任幹事長 寺本和男(一期)

トヨタカローラ島根(二)一一一

副常任幹事長

山本 勲(二期)

島根新聞社(四)四九一

森脇彬之(三期)

松江相互銀行(一)〇二二

一期 原田 米蔵 県教育庁総務課

石川 正雄 石川木材店(一)〇五〇

二期 松本 功 松本歯科(九)八二七

三期 葛尾 信弘 葛尾内科(二)六五五

浅野 和男 松江電水(五)六六三

景山 一(二期) 一文字屋ホテル(二)二七

三期 長瀬 弘 寿商事(三)九四九

森 淳 丸十商事(一)〇八一〇

内藤 哲郎 白石旅館(玉造)(三)二

四期 須藤 行郎 松江農林高校(七)七

仙田 一恭 文泉堂(四)一四二

五期 小玉 清一 和幸電通(三)七六六

原 英治 原文タイプ(七)七七七

藤原 悠 松江一中

丹羽野一徳 山陰合銀銀行支店

伊野 正治 鳥大附属病院

六期 大北 哲也 松江女子高校(三)三六

熊谷 侑子 玉湯中学(玉造)(三)〇〇

山本 隆志 山本漆器店(二)五二五

景山 喬夫 一文字屋ホテル(二)二七

七期 原 陽登 松江工業高校(四)四

森脇 義弘 森脇本店(四)五九四

森永 二樓 松江相互米子支店

漢東(錦織)美代子 自宅殿町城山

八期 米沢 直行 米沢写真館(六)五四二

今村 芳郎 ニューイマムラ(三)三〇

猪股美佐子 内中原幼稚園(四)六

九期 岸本 弘道 NHK松江放送局

岡 栄二郎 三英堂(三)四〇三

十期 竹内 誠 竹内時計店(二)七八七

小西 照明 小西家具店(三)八一

橋本小西久代 自宅上乃木町矢の原

十一期 福井 喜好 日産サニー島根販売店

三成 佑市 東部花王販売(六)七

井原 雅夫 井原洋服生地卸(三)三

十二期 和田 八東 島大会計課(七)一〇〇

佐藤 正一 鳥根松江支店(五)六

十三期 野津 昭夫 松江相互銀行(三)三

福間 啓夫 県知事室(五)七七二

園山 興造 園山書店(四)一六七

十四期 田中征二郎 田中酒造(三)八七一

長瀬 和助 ながさこ人形店(七)七

大江 俊彦 山陰合銀本店(七)二

十五期 内田 俊夫 生馬小学校(八)八八〇

渡部 俊美 松江日大高校(九)九

小笹 義治 日本共産党東部委員

十六期 金平 憲 金公堂時計店(三)三

長谷川 宏 長谷川印刷(二)四〇七

十七期 河野 利子 自宅矢田町

十八期 古藤 定治 島根大(七)一〇〇

乾 隆明 みつや精肉店(三)六

同窓会館建設のための 募金計画概要

この度の同窓会館建設という事業が決定されるにいたった事情は、およそ次のとおりです。

一、移転改築期成同盟会で、移転を機に卒業生、在校生が共に利用できる同窓会館建設が提案され、デッサン(第三頁五段所載)のような原案が作成されました。

百万円を、次のように分担すること、関係諸団体に提示されました。

双松会(松江中学校同窓会) 二千五百万円
松高・北高同窓会 千五百万円
松操会(松江高等女学校同窓会) 五百万円

一、この提示額について、本同窓会では幹事会を数度開き、検討の結果、右の金額を受諾することに決定しました。

一、本同窓会常任幹事会では、各期の募金目標額を検討し、次のように立案し、本同窓会幹事会では、この原案を承認しました。

一、各期募金目標額は左のとおりです。

一期 百五十万円 二期 百五十万円
三期 百五十万円 四期 百五十万円
五期 百五十万円 六期 百五十万円
七期 百五十万円 八期 百五十万円
九期 百五十万円 十期 百五十万円
十一期 百五十万円 十二期 百五十万円
十三期 百五十万円 十四期 百五十万円
十五期 百五十万円 十六期 百五十万円
十七期 百五十万円 十八期 百五十万円

期により募金目標額に差異があるのは、年齢等を考慮したためです。

十五期については、卒業生数が他の期の約半数のため、募金目標額を配慮しました。

事務局から

御送金方法 その他

振替による送金

同封の、郵便局振替用紙・山陰合同銀行振替用紙・松江相互銀行振替用紙・島根信用金庫振替用紙を御利用下さると、手数料はいりません。

但し、銀行関係の振替用紙は、支店所在地御在任の方にのみ同封します。

現金書留による送金

この場合、宛名は、
松江市西川津町三六一八番地、松江北高等学校内、松江高校・松江北高等学校事務局募金係宛(千六九〇)

御贈金について

募金期間(後出)ならば、三回以内の御分納も結構です。

法人寄附免税措置について

この事業に対する寄附は、指定寄附扱いになりますので、法人関係で御寄附いただきますと免税となります。

この免税措置について、事務局としては目下、申請の準備をすすめています。認可され次第、法人関係で御寄附を予定の方にはご通知申し上げますので、同封の返信用ハガキの所定欄にその旨を御記入下さい。免税関係の詳細については、認可のご通知にあわせてご連絡させていただきます。

募金期間

募金期間は、昭和四十七年八月から昭和五十年三月末までとします。

お願い

募金期間は右のとおり三ヶ年間にわたりますが、同窓会館の建築は昭和五十年四月頃に着手の予定です。

この事業は募金によってだけ行なわれるものではなく、事業の規模はこれによって決定されます。従って、

できるだけ早く御送金いただきますと、立案および事業推進が容易になりますので、よろしく御協力のもと、お願い申し上げます。

期成同盟会の募金委員会としましては、御贈金額をなるべく早く集計して、事業に対する細案を検討したいと考えております。勝手ながら、同封の返信用ハガキに、御贈金額等をご記入の上、折返しご投函下さいませようをお願いいたします。なお、御分納いただいた方ににつきましては、御贈金額ならびに御分納の回数、時期などについてご記入下さい。現金書留によって送金下さる方につきましては、ご面倒ですが、返信用ハガキに所定の事項をお書き下さってご投函下さい。このハガキをそのまま寄附台帳に転用させていただきます。募金事務を簡素化させていただきます。御寄附を御奨励いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

校史編纂について

創立百周年を記念して、目下校史の編纂に取り組んでいます。学制が施行された明治五年から遅れること四年、明治九年に創設されてから今日までの本校の歴史は、まさに、日本の中等教育の歴史ともいえるでしょう。それだけに、編纂事業は、資料の収集に極めて難じゅうしております。

みなさまのなかで、松江中学校、松江高等女学校、松江高等学校(新制)等に関する資料をお持ちの方がありませんら、責任をもって保管いたしますので、拝借させていただきますとよろこびます。特に、松江中学校は昭和二十三年、松江高女は昭和十六年の火災で、それ以前の資料の多くを失っていますので、校友会誌、写真、文集、運動部の戦績等々なんでも結構でございます。

同窓会名簿刊行のおしらせ

同窓会名簿刊行のおしらせ

旧聞に属しますが、同名簿は、昭和四十六年に発行されました。

社会の第一線に御活躍の皆様がたの御活用を期待いたします。故旧への、お便りのよすがに、また、御縁談に類価七百円。(送料)百五十円

取扱所

松江北高同窓会事務局内
松江市白濁本町 園山書店
東京都港区新橋一丁目十五番四号
堤第一ビル、上村海運内、上村桂一郎(丑五九一・7566)

卒業生御著作品集について

昭和五十年は開校百周年にあたり、また校舎新築移転の成る年でありました。松江北高では、記念祝賀行事の一環として、松江中学以降現在に至る迄の卒業生の御執筆になる御著作品の御寄贈を御計画をすすめることになりました。

御著作品のすべては、新築される同窓会館内「芝蘭室(しらん室)」にコーナーを設け、卒業生の御業績として末永く展示し、在校生への励ましと資とするものであります。

御本を著わされた卒業生の、御住所、御氏名を松江北高同窓会事務局まで御一報いただきますよう御協力の程、お願い申し上げます。

消息の確認について

会員の動静を可能なかぎり正確に把握したいと、事務局ではいろいろな方面にアンテナを張っています。なにしる会員総数一万三千余、社会の第一線で活躍のため、しばしば転勤される方が極めて多く、また、女性の方は、次々と改姓されて東に西へと、二千あまりの学生諸君にいたっては、親でも住所のわからない人までいるといった実態です。四十六年一月以降で、住所、勤務先、氏名等の変更があった方をご存知でしたら、わかる範囲で結構です。同封返信用ハガキの異動通知欄にご記入下さい。クラス、地域、職場等で名簿を作成された場合、転勤などで挨拶状を作られた場合等々とき、事務局へ一部お送り下さるとよろこびます。



カット 旧職員 綿織保久先生

大国蔵蔵先生ご逝去



先生は松高御退職後「東大寺学園」高校に御勤務でしたが、昭和四十七年三月九日宿病の心不全で、奈良市に於て急逝なされました。心から御冥福をお祈りするものであります。合掌
御遺族は、奈良市学園朝日町三の二(〒631) 大国信子氏です。

昭和46年度決算書

収入		
項目	金額	備考
入会金	765,700	全日制741,900 通信制23,800
利息	112,039	
前年度繰越金	1,883,456	
計	2,761,195	
支出		
会議費	49,400	幹事会等
東京支部補助費	65,000	総会等補助
近畿支部補助費	50,000	総会案内状等
期別同窓会補助費	30,000	1期(前年度) 3期 4期 11期 1期
記念品費	109,250	卒業記念品
印刷費	44,000	案内状、封筒等
備品費	100,000	宛名印刷機等
通信費	5,292	案内状発送、電話料等
旅費	35,340	近畿支部総会出張等
計	483,282	

監査の結果、厳正、かつ適切に処理されたことを証明します。

監査委員 大北 哲也(6期) 米沢 哲直(8期)

近畿松高・北高同窓会総会

ご案内

とき 昭和四十七年九月十日(日) 十二時から
ところ 東洋ホテル(三七二)一八一―
(地下鉄御堂筋線中津駅下車 駅から直結)
会費 二十五年卒業から四十年卒業の男子の方は 三、〇〇〇円
四十一年卒業以降ならびに女性の方は 二、〇〇〇円

あの人、この人、はじめての方々のご参加をお待ちしております。昨年も、お子様連れのお母さんもおみえになっていました。初秋のひととき、懐かしい高校時代の思い出を語り合おうではありませんか。

近畿松高・北高同窓会の総会は、毎年九月第二週の日曜日の、同一時刻、同一場所で開催することに決めております。